

令和4年11月18日

広島信用金庫

## 令和4年度 上半期業績 について

広島信用金庫（理事長 川上 武）の令和4年度上半期業績につきまして、下記のとおり、お知らせいたします。

### 記

#### 1. 令和4年度 上半期業績概要

##### (1) 業容について

預 金	1, 6 4 3, 2 1 4 百万円	（前期比 26, 162 百万円増 1. 6%増）
貸 出 金	1, 0 4 0, 3 2 0 百万円	（前期比 3, 372 百万円増 0. 3%増）

預金は、地域に密着した営業活動を推進してまいりました結果、4年3月末比 261億円増加し、1兆6, 432億円となりました。

貸出金は、地域経済の活性化を図るため、地域の皆さまの資金ニーズに積極的に対応いたしました結果、4年3月末比 33億円増加し、1兆403億円となりました。

##### (2) 利益について

経 常 収 益	1 0, 3 8 0 百万円	（前年同期比 159 百万円減 1. 5%減）
実 質 業 務 純 益	2, 0 5 3 百万円	（前年同期比 121 百万円増 6. 2%増）
コ ア 業 務 純 益	2, 0 5 3 百万円	（前年同期比 131 百万円増 6. 8%増）
経 常 利 益	1, 3 5 6 百万円	（前年同期比 503 百万円減 27. 0%減）
当 期 純 利 益	9 4 5 百万円	（前年同期比 422 百万円減 30. 8%減）

貸出金利回りの低下により貸出金利息収入が減少し、経常収益は、前年同期比 1億59百万円減収の103億80百万円となりましたが、物件費の減少等により、コア業務純益は、前年同期比 131百万円増益の20億53百万円となりました。

与信コストの増加により経常利益は、503百万円減益の13億56百万円、最終利益である当期純利益は、4億22百万円減益の9億45百万円となりました。

(3) 不良債権の処理状況について

資産のさらなる健全化をはかるべく、厳格な自己査定にもとづく不良債権の処理を行いました結果、令和4年度上半期における不良債権処理額は、7億47百万円（前年同期比5億53百万円増）となりました。

(4) 信用金庫法および金融再生法による開示債権について

(金額単位：百万円)

	開示額 ①	担保・保証等 ②	貸倒引当金 ③	保全率 (②+③) / ①
破産更生債権等	2,833	986	1,847	100.0%
危険債権	23,847	13,090	5,081	76.2%
要管理債権	229	129	24	67.0%
三月以上延滞債権	123	84	13	78.5%
貸出条件緩和債権	105	45	11	53.5%
小計	26,910	14,205	6,953	78.6%
正常債権	1,017,991			
合計	1,044,901			

信用金庫法および金融再生法上の不良債権額は、269億10百万円（4年3月末比14億70百万円増、5.7%増）、不良債権比率は、4年3月末比0.13ポイント上昇し、2.57%となりました。なお、不良債権額のうち78.6%は、担保・保証および貸倒引当金により保全がはかられております。

(5) 自己資本比率（国内基準）について

自己資本総額	105,034百万円
コア資本に係る基礎項目	107,161百万円
コア資本に係る調整項目	2,126百万円
リスクアセット	801,142百万円
自己資本比率	13.11%

自己資本比率は、4年3月末比0.03ポイント低下の13.11%となりましたが、引き続き、国内基準の4.0%を大きく上回っております。

(6) 令和4年度決算予想（令和5年3月期予想）

- ・ 経常利益 30億円程度
- ・ 当期純利益 21億円程度
- ・ 自己資本比率 13%台
- ・ 不良債権比率 2%台

[お問い合わせ先] 経営企画部 広報室 TEL 082(245)0030